

2022年12月13日

公益財団法人 笹川スポーツ財団

## 2022年、スポーツ総決算！

### 【あなたが選ぶ！2022年スポーツ重大ニュース&活躍したアスリート】 北京2022大会、大谷翔平の二刀流の活躍、羽生結弦のプロ転向表明が上位

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する公益財団法人笹川スポーツ財団（所在地：東京都港区 理事長：渡邊一利 以下：SSF）は、「あなたが選ぶ！2022年スポーツ重大ニュース&活躍したアスリート」を発表しました。2022年11月28日から12月7日にかけて当財団ウェブサイトとSNSでアンケートを実施。5,216票の回答結果により、2022年の印象に残ったスポーツ界の重大ニュースと活躍したアスリートが明らかになりました。

昨年に続き猛威を振るった新型コロナウイルス感染症。スポーツイベントの中止・延期もある一方で、観客を入れて開催する競技も多くなりました。2月の2022年北京オリンピック・パラリンピック大会では、日本人選手の活躍に大いに沸き、北京2022大会関連のニュースとアスリートが、アンケート結果でも上位に複数入りました。そんな中、冬季オリンピックのフィギュアスケートで、2大会連続金メダルを獲得した羽生結弦がプロ転向を表明し、多くの人々の印象に残ったようです。そして、昨年に続き投打の二刀流で大活躍をみせたメジャーリーグ・エンゼルスの大谷翔平。2022年の活躍したアスリートで、堂々の1位となりました。

#### ■2022年、印象に残ったスポーツ関連ニュース

順位	① 2022年印象に残ったスポーツ関連ニュースを教えてください（5つまで）
1位	7月【フィギュアスケート】オリンピック連覇を成し遂げた羽生結弦が、プロ転向を表明。
2位	2月【北京2022大会】フィギュアスケート、男子シングルで鍵山優真が銀、宇野昌磨が銅、女子シングルで坂本花織が銅メダル獲得
3位	3月【世界フィギュアスケート選手権】男子シングルで宇野昌磨が優勝、鍵山優真が2位。女子シングルでは坂本花織が優勝。
4位	2月【北京2022大会】スノーボード、平野歩夢が男子ハーフパイプで金メダル獲得。冬季3大会連続での同一種目メダル獲得は日本人初
5位	3月【体操】体操男子の個人総合でオリンピック連覇、世界選手権6連覇など数々の偉業を残した内村航平が引退。
6位	2月 ロシアによるウクライナ侵攻が始まり、北京2022パラリンピックやサッカーW杯予選など、多くの国際大会へロシアが不出場。
7位	11月【サッカー】サッカーW杯カタール、予選リーグで日本が4度の優勝を誇るドイツに2-1で逆転勝利。
8位	2月【北京2022大会】フィギュアスケート、ロシアの15歳・ワリエワが禁止薬物の陽性反応が出るも出場し物議。
9位	8月【メジャーリーグ】エンゼルス・大谷翔平が、1918年のペーブ・ルース以来となる2桁勝利と2桁本塁打を達成。104年ぶりの記録。
10位	10月【スケート】平昌2018大会・スピードスケート女子500m金メダリストの小平奈緒が引退。最後のレースで優勝。

**■2022年、活躍したと思うアスリートを教えてください（5人まで）**

順位	② 2022年、活躍したと思うアスリートを教えてください（5人まで）
1位	大谷 翔平（野球）
2位	平野 歩夢（スノーボード）
3位	宇野 昌磨（フィギュアスケート）
4位	国枝 慎吾（車いすテニス）
5位	坂本 花織（フィギュアスケート）
6位	村上 宗隆（野球）
7位	高木 美帆（スピードスケート）
8位	佐々木 朗希（野球）
9位	鍵山 優真（フィギュアスケート）
10位	小林 陵侑（スキー）

**【調査概要】**

調査方法：インターネット調査（SSF ウェブサイト、Twitter、Facebook）

調査時期：2022年11月28日～12月7日

有効回答数：5,216票

**<2022年スポーツ界の状況とSSFの取り組み>**
**1. 昨年に続き、コロナ禍で不安な幕開け**

2022年、依然として新型コロナウイルス感染症「オミクロン株」の猛威が続く。感染者数が増え、1月21日、東京や愛知など13都県にまん延防止等重点措置が適用された。箱根駅伝やニューイヤー駅伝、全国高校サッカー選手権などが開催される一方、全国都道府県駅伝（男子）や柔道の講道館杯、日本車いすバスケットボール選手権大会などは中止・延期となり、まだまだ不安が残る2022年のスタートとなった。

**【SSFの取り組み】**「子ども・青少年のスポーツライフ・データ2021」の調査結果を発表。コロナ禍での子どもの運動・スポーツ実施状況とともに、新調査項目「心の健康」において、高頻度・高強度で運動・スポーツを行う者ほど、抑うつ症状が少ない傾向であることなどを示した。

**2. 北京2022大会とロシアによるウクライナ侵攻**

2月4日、2022年北京オリンピック、3月4日に2022年北京パラリンピックが開幕。東京2020大会同様、日本選手の連日の活躍は私たちに大きな力を与えてくれた。しかし、この時期にロシアによるウクライナ侵攻が始まり、世界に大きな衝撃が走る。スポーツ界では、北京パラリンピックなど国際大会中心にロシアを参加させない措置をとり平和を訴えた。

**【SSFの取り組み】** 冬季オリンピック・パラリンピックをより楽しんでもらえるように、日本の冬季オリンピック参加の歴史や過去の名選手を紹介するなど、特集を組んだ。

### 3. 日本スポーツ界の新たなスタート

3月、声出し応援などの制約があるものの、プロ野球が観客上限を撤廃し開幕するなど、スポーツ界が徐々にコロナ禍以前の姿を取り戻すべく歩を進めていく。そして4月に第3期スポーツ基本計画がスタート。東京2020大会のレガシーの継承やスポーツの価値を高めるための施策などが掲げられた。スポーツ庁は、部活動の地域移行において、公立中学校の部活動における休日の運営主体を学校から地域の外部団体に移行する提言を発表。スポーツ界は新たな局面、大きな転換期を迎えた。

**【SSFの取り組み】**部活動の地域移行や子どもたちのスポーツ活動における勝利至上主義など、スポーツ界の問題に切り込んだエッセイ等を、SSFウェブサイトで開催した。

### 4. 東京2020大会から1年。共生社会の実現を目指す

東京2020大会から1年、東京2020大会組織委員会が約8年の活動を終了。東京2020大会のレガシー創出を加速させようとした矢先、組織委員会元理事の汚職事件が発覚し、複数の関係者が逮捕される事態となった。

**【SSFの取り組み】**スポーツ界に暗い影が落とされる中、SSFは共生社会の実現に向け、障害者スポーツ環境の実態を調査。2010年の調査開始以来、障害者専用・優先スポーツ施設が最多となる150あることを明らかにするとともに、障害児・者の運動・スポーツの日常化に向けて、障害者専用・優先スポーツ施設を中心に地域の社会資源とのネットワーク化の重要性について言及した。

### 5. 国内外でのアスリートの活躍で再確認した、スポーツの力

昨年に続き、メジャーリーグ・エンゼルスの大谷翔平が投打の二刀流で大活躍した。1918年のベーブ・ルース以来となる、2桁勝利と2桁本塁打を104年ぶりに達成。ボクシングでは、バンタム級の井上尚弥が日本人初の3団体統一王者に輝いた。また、世界陸上オレゴン大会や、4年に一度開催されるワールドゲームズ2022でも日本人アスリートが活躍。さらに、サッカーのワールドカップカタール大会で日本代表が2大会連続のベスト16進出を果たすなど、日本国内は熱狂に包まれた。感動し勇気をもたらした人も多かったはずだ。

**【SSFの取り組み】**10月に、最新の「好きなスポーツ選手2022」を発表。大谷翔平が圧倒的1位に輝き、井上尚弥が4位と初の上位にランクインした。また、ワールドゲームズ2022では、SSFは日本事務局として運営に携わり、理事長の渡邊がJWGA副会長として、日本選手団団長を務めた。

### 6. より良いスポーツ政策形成、地域スポーツ推進のために

2011年に、それまでのスポーツ振興法が改正されスポーツ基本法が施行され、約10年が経過した。4月には第3期スポーツ基本法がスタートし、2023年度から、休日の運動部活動については、段階的に地域のスポーツクラブなどに移行する。

スポーツ政策は、移り行く時代の中で、さまざまな課題を解決するために大きな貢献をしてきた。その一方で、スポーツの価値と真価が問われているのも事実である。スポーツが人々の心身の健康や社会的幸福の実現のために果たすべき役割「ウェルビーイング」、少子高齢化社会など山積する社会課題をスポーツで解決していくことなどが、より求められている。

**【SSFの取り組み】**より良いスポーツ政策形成、地域スポーツ推進のために積極的な政策提言、自治体との共同研究などを加速させる。そして健康寿命の延伸、共生社会など「スポーツによって長くアクティブに生きられる社会」の実現に向け、日々の研究活動を行っている。